

このとおり、学校評価について報告いたします。

さぬき市立神前小学校 校長 岩澤 徳 幸



	評価項目	評価 (4段階)	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	信頼される学校に関すること (開かれた学校、教職員の資質向上等)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校だより」「学年だより」「保健だより」等で学校の取組や児童の様子を保護者に発信できている。それらの情報を掲載したホームページの更新を定期的に行い、保護者や地域から好評を得ている。</li> <li>○保護者評価では、「学校は保護者や地域住民が行事や授業等を参観する機会をよく設けている」と回答した保護者は98%で、「授業参観や行事などは、子どもの態度や様子がよく分かり、楽しく参観でき、来てよかったと思うことが多い」と回答した保護者は92%であった。</li> <li>○「学校は、保護者・地域住民の声や願いに応える教育を積極的に行っている」と回答した保護者は93%であったが、「教職員は、一人一人の子どもをよく見て、個に応じた指導をしている」と回答した保護者が84%で昨年度より7%下がった。保護者の学校に対する信頼感を回復するための方策が必要である。</li> <li>○現職教育においては、豊かな言語活動を通して、確かな学力を身に付け、進んで表現する児童の育成をめざして、今年度も、学習習慣の形成に重点をおき、家庭との連携と日々の授業実践を大切に教材研究に努めてきた。各教員が年間に必ず一度は研究授業を実施するようにし、指導力の向上を図っている。授業研究においては、KJ法を使った討議や外部指導者による適切な指導・助言を得ることにより教員一人一人の授業力・教師力の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一部の項目で保護者からの評価が下がったことについて、各学年の保護者に学校での取組をもっと分かりやすく説明する努力が大切である。</li> <li>○職員を信頼できないと回答した保護者への対応やその要因を考え、改善策を行い、さらに信頼感を高めていってほしい。</li> <li>○今年度、保護者・児童・教員三者の学校評価項目の見直しを図り、クロス的な視点で考察し、課題の洗い出しとその対応策を考えて実践している点がすばらしい。</li> <li>○現職教育や学校訪問等の研究授業は、外部指導者を招き、適切な指導を得ることができている。</li> <li>○教員の指導力・授業力の向上を図るため、さらなる研修を継続してほしい。</li> </ul>
2	確かな学力と主体的な学びを生む場の実現に関すること	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業では、家庭学習と授業をつなぐ取組を実践したり、表現内容を充実させた学習指導の工夫に力を注いだりした。板書とノート・ワークシートを連携させた指導を行い、教員がどの学習活動でどのように板書し、どのようにノートに書かせるのかを明確にするよう工夫改善を行った。</li> <li>○学習課題に対して、一人学び、ペア学習やグループ学習、全体交流を意図的に組み込んだ授業実践を図った。この基本パターンが定着してきた。さらに、継続研究していく必要がある。</li> <li>○家庭学習や自主学習の定着のため、各家庭に低・中・高学年毎の「家庭学習の手引き（改訂版）」を配布し、ワークショップ形式の学級懇談会等において、家庭での具体的な取組の情報交換を行った。その結果、アンケートでは「家庭学習や基本的な生活習慣などについて、学校と連携して定着を図っている」と回答した保護者は88%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度から、指導案の中に板書・ノート（ワークシート）計画を作成している。これは、1時間の授業の流れが一目で分かるとともに、教員自身にとっても、どの学習活動で、どのようなことを板書し、どのような支援をするのか等が分かるようになっている。本校独自の取組なので、今後も活用していってほしい。</li> <li>○できれば、普段の授業でも活用し、実践の積み上げをしてほしい。</li> <li>○考えることを重視した授業を行ってほしい。</li> </ul>

3	少人数指導（少人数学級）に関する こと			
4	道徳教育の充実に関する こと	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わたしたちの道徳」を活用した道徳の授業実践が、課題である。友だち週間や運動会など様々な行事や体験活動と連携した実践を行うとともに、言葉遣いの適正化や規範意識の定着に向け、今後とも継続的に指導していきたい。</li> <li>○「道徳の日」は、道徳の時間に学習した道徳的価値を家庭で話し合ったり、考えたりする機会の日となるように活用し、学年だより等を通じてその情報を発信するよう改善を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳の教科化を考慮した実践をしてほしい。評価の仕方についての情報が知りたい。</li> <li>○子どもたちの会話の言葉遣いが気になる。言葉で相手を思い合えるよう規範意識の育成と共に日常的な指導の中で育ててほしい。</li> </ul>
5	時代の変化に対応した教育に関する こと	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも地域の施設や人材、目的に合った外部人材を活用し、本物にふれるなどより体験的で、交流を伴った学習が展開できている。（職場体験学習・雨滝自然科学館・非行防止教室・租税教室・香川用水出前教室・石田高校との田植え・稲刈り体験・幼稚園児との交流・自転車教室・読み聞かせ・野菜づくり等）</li> <li>○外国語活動については、特別非常勤講師及び学校教育活動支援員による指導援助と電子黒板等の積極的な活用により聴覚及び視覚の両面に訴えることで大変有効な指導につながっている。</li> <li>○食育においては、各学年で栄養教諭による指導があり、児童にとって分かりやすく実生活に結び付くものになった。</li> <li>○創刊53号を迎える「いちよう文集」は、全校生が楽しかった1年間の思い出を作文にし、2年生以上が自分でパソコンを使って原稿を作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の教科化によって、従来の聞く・話す活動だけでなく、書く活動が加わる。外国語は、これから児童の身に付けさせたい大切な力なので、力を入れてほしい。</li> <li>○学校内にも外国語活用に関する環境も整備してほしい。</li> <li>○教員の新しいメディアを使った授業研究が課題となっている。児童に対しては、パソコンの活用を低学年から積極的に行っている。</li> <li>○学校支援ボランティア等の外部指導者を活用してもよい。</li> </ul>
6	学校図書館教育に関する こと	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書ファイルを活用し、「読書目標を達成」を明確にした。本をよく読んでいる児童とあまり読んでいない児童の二極化を防ぐため、スモールステップの読書目標を設定した。</li> <li>○読書ボランティアの方々（PTA他）による「朝の時間の読み聞かせ」や図書館教育支援員による図書室の掲示等の環境整備が整うなど全般を通し充実し、児童の読書意欲を高めている。</li> <li>○図書の貸し出しは完全にバーコード化し、図書をパソコン管理するため作業が大変スムーズに行えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTAやボランティア、教員や児童による読み聞かせの取組は、読書に対する意欲化につながるよい取組である。</li> <li>○新聞を読む児童は、学力が高いというデータがある。活用を考えてもよいのではないかな。</li> </ul>
7	自己指導能力を育てる生徒指導に関する こと	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間関係のトラブルで11月末から不登校傾向になり、1月からさぬき市適応指導教室に通級するようになった事例があった。その原因をいじめと捉え、全校の問題として全教職員で対応する体制をとったが、保護者の信頼関係を立て直すことができず、さぬき市少年育成センターの協力を得ることになった。</li> <li>○月1回、児童の情報交換会を実施し共通理解を図るとともに、心の教室相談員やスクールカウンセラーの助言も頂きながら、全教職員が連携して共通理解のもと児童の指導に当たっている。</li> <li>○定期的な「いじめアンケート」や毎月の「あのねカード」から情報を収集し、いじめの早期発見に徹した。10・11月で7件の問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まずは、学校が全責任を負い、保護者と真摯に向き合い、信頼を回復する対応を取ってほしい。</li> <li>○いじめの原因を早急につきとめることが大切である。日々のチェックを大切にしてほしい。</li> <li>○不登校になった児童との友達関係が修復できることを願っている。</li> <li>○悪い言葉づかいで相手を傷つけてしまうことを知らなかったのが悪</li> </ul>

			<p>題行動をいじめと認知し、指導した。ほとんどの事案が解決して、経過を観察している。主たる原因は、悪口や言葉づかいであった。全校的な指導が必要である。</p> <p>○児童評価では、「相手の目を見てあいさつや正しい言葉づかいをしている」が93%で昨年度よりよくなってきているが、保護者、教員評価とのギャップがあった。大人の思いをうまく児童に伝え、児童の優しい気持ちを伝えられる言葉づかいをさせたい。</p> <p>○「家庭でのお手伝い」37%の児童ができていないと回答している。家庭と連携した指導が必要である。</p>	<p>いではなく、知ろうとしないことが悪いのではないかと考える。道徳教育・人権教育生徒指導をセットにして考えなければならないと思う。</p> <p>○保護者と連携して、正しいあいさつの仕方やことばづかい、お手伝い等に取り組みせてほしい。</p>
8	人権教育に関すること	3	<p>○今年度は、友だち週間（校内人権週間）だけの取組に終わらないように、年度当初から年間を通じて、互いに認め合い人を思い合う心の育成を目指してきた。人権週間期間中は、学級人権宣言の発表や人権啓発標語作品、ありがとうの木の掲示をした。しかし、まだ相手を傷つける「チクチク言葉」を使う児童も多く、それがいじめの主原因となっている場合があり、さらに継続的な指導が必要である。</p> <p>○ふれあい班（異学年縦割りグループ）による活動等の実施で助け合いの精神が培われている。児童評価の「わがままをせず、みんなのことを考えている」では83%、「誰とでも仲良くしているか」では88%があてはまると回答している。運営の仕方の工夫が必要である。</p> <p>○現職教育で辛立文化センターでの研修を行い、さぬき市内の人権問題についての理解を深めることができ、教職員の人権感覚が高められた。</p>	<p>○人を傷つけてしまうことを知ろうとすることが人権教育だと考える。道徳教育と関連付けて、お互いの意見を言う権利を認め、違う意見の人を侮辱しない、人に対する思いやりの心を養う教育をしてほしい。</p> <p>○人権週間の時だけの取組としてではなく、年間を通じた人権教育の取組として人権週間を位置付けているのがよいと思う。是非、来年度も継続して取り組み、成果を出してほしい。</p> <p>○言葉づかいに関しては、家庭と協力して取り組んでほしい。</p>
9	健康・安全教育に関すること	4	<p>○保健学習、保健指導を各学年が計画に沿って実施できている。</p> <p>○学校保健委員会は、学習発表会の日に実施し、できるだけ多くの保護者に参加してもらえよう日程を工夫した。内容は、「自分の朝食を見直そう」というテーマで、東讃保健所職員を講師として招き、啓発を図った。30名（PTA会員の約1/2）の参加があり、好評であった。</p> <p>○「学校内外の環境整備が行き届いており、子どもが快適で安全に学校生活を送れるようになっている。」と回答した保護者は、92%である。今年度、各教室の錠を付ける改修を行い、不審者対応が十分にできるようになった。</p> <p>○1月に5年生でインフルエンザが流行したが、積極的な手洗い・うがい・換気の励行、各教室の加湿器完備により、インフルエンザの拡大を防止することができた。</p> <p>○学校での朝の体力づくりの活動は、季節に応じた運動を計画的に実施することができ、効果があった。児童アンケート「つねに体力づくり、外遊びをしている」では87%があてはまると回答した。家庭においても、季節に応じた運動が自主的にでき</p>	<p>○インフルエンザの流行を懸念していたが、適切な対応で流行を防ぐことができたのはすばらしい。</p> <p>○外で元気に遊んでいる児童が増え、体力づくりにも役立っていると思う。自転車で移動しているので、気を付けてほしい。</p> <p>○各教室の錠ができるようになり、不審者対応に関する環境整備も十分行われている。校門の張り紙も十分に機能を果たしている。</p> <p>○基本的な生活習慣を身に付けるためには、家庭との連携が不可欠である。生活リズムチェック表を活用して、いろいろな機会を通して保護者啓発を行ってほしい。</p>

			<p>るよう啓発する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルの完備及び周知徹底を行うとともに、地震(エイクワト)によるダム決壊時や津波を想定した避難訓練を実施した。また、火災・台風・不審者対応訓練及び児童引き渡しカードによる家族への引き渡し訓練(2回)を実施した。</li> <li>○緊急地震速報を利用した安全行動をとる訓練のために「神前小防災の日」を毎月1回実施した。いつ、どこにいる時に起きるか分からない大地震の際に「自分の命は、自分で守る」という意識を持って、自分の生命を守れる場所や行動を自分で判断する力が付いてきている。</li> <li>○健康良習慣の形成(手洗い・歯磨き・運動・早寝・早起き・朝ごはん)については、生活リズムチェック表を活用し、調査結果から課題のある児童や家庭との連携が必要な児童を洗い出し、繰り返し指導ができた。保健だより等を通じて、情報を伝え、保護者の啓発を行いたい。</li> <li>○学年団下校や集団登下校により、交通安全や不審者等への対策としている。二か月に1回、班長・副班長会を開催し、できるだけスムーズな班行動がとれるよう支援している。また、集団登校ができていない児童の指導も行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTAの発案で、年間2回(年度初めと秋)児童引き渡し訓練を実施することができ、保護者の防災に関する意識が高まっている。</li> <li>○神前地区合同防災訓練にもPTAが協力し、地域ぐるみの防災訓練を実施しているのがすばらしい。今後も是非、継続して地域の防災意識を高めていってほしい。</li> <li>○コンビニ前の交差点の整備ができ、安全面での環境整備が整ってきている。</li> <li>○下校時の見守り隊等のボランティアがよくお世話をしてくれている。</li> <li>○児童の下校の安全性を高めるために下校ルートの見直し・変更を行ってもいいのではないか。</li> </ul>
10	特別支援教育に関すること	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育コーディネーター(支援学級担当)を中心に、発達障害の理解と対応についての研修をさらに充実させるとともに、特別支援教育に対する校内の支援体制づくりを図ることができた。</li> <li>○来年度就学及び再来年度就学について早い段階から幼小の連携を図りながら、できるだけ小一ギャップを払拭するべく、状況把握やその対策等について取り組んできた。</li> <li>○発達障害のある児童の支援について、保護者の理解を得るため、さぬき市教育委員会や専門機関との連携を密にし、ねばり強く取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援学級の入級について、就学前の段階から幼稚園とも連携して、小学校での教育課程の説明や授業参観など行い、保護者の理解を得ることができているので、スムーズな入級ができています。</li> <li>○発達障害をもつ児童の指導が大切である。保護者の信頼感を高めるためにも連携を密にしてほしい。</li> </ul>
11	その他(特色ある教育など)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度から「学習習慣形成」のため家庭との連携を図る取組を実践研究してきた。この実践の成果が香川県学習状況調査結果に明確に表れている。この成果につながる有効な手立てをつかむことができた。来年度も、この実践を継続していきたい。</li> <li>○学校内外のボランティア活動を「さわやか活動」とし、自主的にさわやか活動を取り組む「さわやかキッズ」を結成し、今年度は、62名(全校生の63%)がさわやかキッズとして活動している。さわやかキッズをさわやか活動の呼び水として全校生で行うさわやか活動へと拡大していきたい。</li> <li>○今年度も、学校支援ボランティアコーディネーターの協力を得て、学校の樹木の剪定を実施することができた。学習支援や環境整備や様々な行事へ協力を来年度もお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度も「学習習慣形成」のため家庭との連携を図る取組を継続してほしい。</li> <li>○石田小学校との統合に向けて、児童の交流、PTA間の情報交換、校区子ども会の情報交換、地域の交流等を実施してほしい。</li> <li>○児童のさわやか活動(ボランティア活動)を継続してほしい。</li> <li>○児童の読解力を高めるために、新聞の活用も考えてほしい。</li> </ul>

